

# 令和5年度 普及活動成果集

「多様な人材が躍動する  
魅力ある都市近郊農業を目指して！」



先輩農業者から学ぶ



麦の中間管理講習会



GAP取得支援



経営目標聞き取り



若手生産者向け経営勉強会



肉用牛子牛調査

福岡県福岡普及指導センター

令和6年3月

# はじめに

福岡・筑紫・糸島地域の農業者の皆さま、並びに関係機関におかれましては、平素から福岡普及指導センターの活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、県では、昨今の農林水産業、農山漁村を取り巻く情勢の変化を踏まえ、令和4年3月に「福岡県農林水産振興基本計画」を見直しました。

この計画では、

○消費者ニーズに対応した生産力やブランド力の強化

○次代を担う「人財」の育成

○地産地消といったワンヘルスの推進や環境に配慮した生産の推進

などの施策を中心に、稼げる農林水産業の実現に向けて、取り組む施策の方向性を明確に示しております。

この基本計画に則り、福岡普及指導センターでは、

・品質や収量等の生産性向上や新品種・振興品目の導入

・飼料高騰対策による酪農経営体の育成

・新規就農者の育成・確保や女性農業者の経営参画への支援

・持続可能な農業生産体制の構築

などに取り組んでおり、これらの活動内容を農業者の皆さまや関係機関に広くご理解頂くために本成果集を作成しましたので、ご一読いただければ幸いです。

今後とも、管内の農業・農村の発展に向け、私ども福岡普及指導センター職員一丸となって取り組んでまいりますので、よろしく願いいたします。

令和6年3月

福岡農林事務所福岡普及指導センター長 笹川 文彦

# 目 次

## 1 普及活動の成果

【1】糸島の未来を担う人材の確保・育成及び経営発展	1
【2】女性農業者の能力向上支援	3
【3】水稲の品質向上及びスマート農業の推進	4
【4】麦・大豆における収量・品質向上及び新品種導入	5
【5】担い手育成によるイチゴ産地の活性化	6
【6】若手育成と振興品目による糸島花き産地の活性化	7
【7】ブランドかんきつの安定生産による産地強化	8
【8】園地流動化と省力化による甘夏産地の振興	9
【9】肉用牛の生産力維持・強化	10

## 2 トピックス

【1】グリーンネット福岡が総会と研修会を4年ぶりに開催	11
【2】スマート農業技術による稲作経営の確立	11
【3】㈱百笑屋が全国麦作共励会農林水産大臣賞受賞	12
【4】福岡管内で新たに3つの団体が福岡県GAP認証を取得	12
【5】再生リン酸活用肥料「e・green」の効果検証	13
【6】土壌病害リスクを低減し、花きの安定生産につなげよう！	13
【7】花き類における再生リン酸活用肥料「e・green」の効果	14
【8】令和5年度福岡県花き品評会「技術・ほ場の部(トルコギキョウ)」県知事賞を受賞	14
【9】令和5年度福岡県花き品評会「産物の部」にてクレマチスが県知事賞を受賞	15
【10】第4回福岡県肉用種牛共進会にて最優秀賞を受賞	15
【11】第74回日本酪農研究会で優秀賞受賞！	16
【12】「糸島豚」の地域団体商標を目指して	16

## 3 資料一覧

【1】令和5年の気象概況	17
【2】令和5年度の主な展示ほの概要	19
【3】令和5年度普及指導センター活動情報一覧	21
【4】令和5年度表彰事業実績(国、県)	23
【5】普及指導センターの活動体制	24

# 1 普及活動の成果

## 【1】糸島の未来を担う人材の確保・育成及び経営発展

～ 若手農業者の経営力向上及び雇用環境の整備と新規就農支援の充実 ～

### 要約

地域農業の発展のためには、若い農業者が早い時期から経営者としての視点を持つことが重要です。そこで、他地区に比べ若い農業者が多い糸島地域において、JA糸島青年部を対象に経営研修体制を整え、経営に対する意識醸成を行ったところ、25件（計画のブラッシュアップを含む）の経営計画が策定されました。

また、雇用導入による経営拡大を支援するため、JA糸島に働きかけ無料職業紹介所を開設しました。さらにマッチングアプリの活用を促したことで、178件のマッチングにつながりました。

さらに、JA糸島農業研修生に対し、就農基礎講座の開催や就農計画の作成を支援したことで6名が新規就農しました。新規就農した研修修了生の経営確立を図るため、関係機関と連携した巡回指導を行いました。

### 対象の概況

JA糸島青年部員	83名
JA糸島農業研修生	6名
JA糸島農業研修修了生	8名

### 活動内容

1 次世代を担う若い農業者の経営力向上	
・経営力向上推進チーム会議	5回
・経営力向上研修会	2回
・経営計画策定講座	3回
・講座受講生への経営計画策定個別支援	12回
・経営計画策定受講者報告会	1回
・経営計画策定後の支援	2回
2 雇用導入推進と支援体制整備	
・無料職業紹介所運営会議	4回
・労務管理研修会	1回
・求人・求職データベース管理支援	1回
・求人者・求職者アンケート調査	4回
3 新規就農支援体制の充実	
・農業研修支援会議	1回
・ふくおか就農基礎講座	4回
・作物別基礎講座	2回
・就農計画作成支援	5回
・就農準備支援	1回
・研修修了生への巡回（新規就農支援班及び個別での巡回）	58回

## 成 果

- 1 次世代を担う若い農業者の経営力向上
  - 経営力向上研修会及び経営計画策定講座を運営する経営力向上推進チーム会議を設置した。
  - 研修参加者の経営意識が向上し、経営計画策定につながった。
  - 経営計画策定数（県の講座含む） 0件（R2）→ 25件（R3～R5の累計）  
（※重複作成者2名）
- 2 雇用導入推進と支援体制整備
  - JA系島が無料職業紹介所を開設し雇用労働力確保支援体制が整備された。1体制
  - マッチング数 0件（R2）→178件（R4～R5の累計）
- 3 新規就農支援体制の充実
  - 研修生数 3名（R2）→ 6名（R3～R5の累計）
  - 就農計画達成割合 ー%（R2）→50%（R3）、50%（R4）、60%（R5）



経営研修会後のグループワークの様子



経営計画策定講座の様子



労務管理研修会の様子



就農計画作成支援の様子

## 今後の取り組み

経営計画策定者の計画実践に向け伴走支援に取り組みます。また、経営状況に応じて、専門からアドバイスを得る等、目標達成を支援します。

雇用導入の推進のため、引き続き労働力確保支援体制の充実に向けた支援を行います。

新規就農者の確保に向け、引き続きJA系島農業研修生の就農計画作成及びその計画達成に向けた支援を行います。

## 【2】女性農業者の能力向上支援

～ 女性農業者活動の支援による多様な担い手の育成 ～

### 要約

農林水産業の次代を担う人財の育成のため、女性農業者の能力発揮の取り組みを推進し、多様な担い手として育成しています。

福岡地区では、若手女性農業者組織Wonderful lifeが活発に活動しています。他地区から、この活動について知りたいという相談があり、今年度2回、会員が他地区の女性農業者に活動発表を行い、うち1回では意見交換の機会も設けました。

また、Wonderful lifeと女性農村アドバイザー合同の視察研修など、研修会を複数回開催し、女性農業者の資質向上を支援しました。

### 対象の概況

女性農村アドバイザー	12名
Wonderful life 会員	15名

### 活動の内容

- 1 女性農村アドバイザー研修会
  - ・役員会開催 年間活動検討
  - ・先進地研修交流会（久留米市）
  - ・POPづくり研修会
- 2 Wonderful life 活動支援
  - ・県全域の農村女性グループ連絡研究会研修会での活動発表
  - ・3地区（古賀市、北九州地区、八女地区）との合同研修会（活動発表を含む）
  - ・女性農村アドバイザーとの合同研修



Wonderful life会員の活動発表の様子

### 成果

- 1 女性農業者リーダーの育成  
研修会を通じ、女性農村アドバイザーの資質向上が図られました。また、女性農業者及び関係機関と連携し、地域のリーダーとなりうる女性農業者を、新たな女性農村アドバイザーとして3名（うち1名はWonderful life会員）推薦、認定されました。
- 2 Wonderful lifeの活動活性化  
県内3地区（古賀市、北九州地区、八女地区）とWonderful lifeの交流活動では、総勢53名が出席し、活動発表とグループトークを行いました。他地区の女性農業者と意見交換することで刺激を受けたり、新たな知見を得るなど、資質向上が図られました。

### 今後の取り組み

農業経営における女性農業者の参画を推進するため、女性農業者の能力向上を継続して支援していきます。

# 【3】 水稲の品質向上及びスマート農業の推進

～ 水田農業経営の強化に向けて ～

## 要約

福岡市では、平成30年産から「実りつくし」が導入されましたが、倒伏の発生等による品質不良が続いていました。そのため、実証ほの設置による改善策の提案や、講習会において栽培の重点指導を行ったことで、倒伏が軽減され1等米比率が増加しました。

また、担い手が減少している中で、スマート農業の活用は農地集積による規模拡大や作業の省力化に大きな役割を果たします。そこで、機械メーカーを講師とした研修会や実演会等を開催したところ、スマート農業に関する理解が深まり、スマート農業機械の導入経営体数が増加しました。

## 対象の概況

JA福岡市普通作研究部会	553戸
うち実りつくし生産者	48戸
15ha以上の大規模経営体	37戸

## 活動の内容

- 1 水稲の品質向上
  - 品質向上実証ほの設置 2か所
  - 生育、病害虫調査 6回
  - 栽培講習会 1回
  - ケイ酸資材の施用推進 随時
- 2 スマート農業の推進
  - スマート農業研修会開催 3回
  - スマート農機実証ほの設置 1か所



研修会の様子

## 成果

- 1 水稲の品質向上
  - 実りつくしの1等米比率  
48% (R2) → 66% (R5)
- 2 スマート農業の推進
  - スマート農業機械の導入経営体数  
8戸 (R2) → 30戸 (R5)

導入されたスマート農業機械 (R5.12月現在)

直進アシストトラクタ	4台
自動運転トラクタ	4台
収量コンバイン	6台
直進アシスト田植機	8台
自動運転田植機	1台
後付自動操舵	12台
ドローン	14台
合計	49台

## 今後の取り組み

水稲の品質向上については、引き続き栽培支援を行うとともに、気候変動に対応した品種や栽培方法について検討していきます。

スマート農業の推進については、関係機関と連携し、情報の提供や実演会の開催を計画していきます。

# 【4】麦・大豆における収量・品質向上及び新品種導入

～ 麦・大豆の高収量、高品質を目指して ～

## 要約

糸島地域では大麦と小麦が、筑紫地域では、裸麦と小麦がそれぞれ生産されており、両地域ともに、大豆の生産も盛んとなっています。これらの麦・大豆の収量・品質の向上は土地利用型農業者の経営安定化への重要な課題となっています。

そこで糸島・筑紫の麦・大豆生産者に向けて収量・品質の向上及び新品種の導入に向けた講習会、現地指導及び実証ほの設置を行いました。その結果令和2年産麦と比較して、令和5年産麦において、筑紫では裸麦の硝子率基準値達成率100%、糸島では硬質小麦収量300kg/10a以上達成率が増加、大豆反収も約2倍まで増加しました。

## 対象の概況

JA糸島麦部会	42戸	1,016ha
JA筑紫麦出荷者部会	36戸	320ha
JA糸島大豆部会	20戸	59ha
JA筑紫大豆生産者	15名	61ha

## 活動の内容

- 1 麦類の収量・品質の向上及び新品種の作付け拡大
  - ・収量・品質改善実証ほの設置 2か所
  - ・栽培管理履歴分析 2地区
  - ・栽培講習会及び情報発信 7回
- 2 大豆収量の向上
  - ・収量改善実証ほの設置 7か所
  - ・栽培管理履歴分析 2回
  - ・講習会、現地指導及び情報発信 7回
  - ・「ちくしB5号」実証ほの設置 1か所



大豆実証ほ場の様子

## 成果

- 1 麦類の収量・品質の向上及び新品種の作付け拡大
  - ・裸麦の硝子率基準値達成率 (JA筑紫)
    - % (R2) → 100% (R5)
  - ・硬質小麦収量300kg/10a以上達成率 (JA糸島)
    - 27% (R2) → 65% (R5)
- 2 大豆収量の向上
  - ・大豆反収県平均対比 (JA糸島)
    - 62% (R2) → 88% (R5)
  - ・大豆反収 (JA糸島)
    - 74kg (R2) → 143kg (R5)

## 今後の取り組み

引き続き講習会、現地巡回を中心とした栽培指導を行い、麦、大豆の収量、品質向上に向けた支援を実施していきます。

また残された課題については、次期普及計画において、解決に向けたアクションプランを作成し、それに基づき行動していきます。

# 【5】担い手育成によるイチゴ産地の活性化

～ 新規就農者の経営安定化に向けた支援を実施 ～

## 要約

志賀島では、JA福岡市東部の研修生制度を活用し、過去10年間に8名がイチゴ経営で就農し、地域農業の担い手として期待されています。一方、その経営は炭そ病の発生や厳寒期の草勢低下などから、平均反収が2.5tと県の平均に比べ低く、生産性の向上が課題となっています。

そこで、新規就農者を対象とした個別面談による具体的な経営改善目標の設定、技術検討会や現地巡回等による技術力向上を支援しました。

その結果、炭そ病対策をはじめとした栽培技術の改善や厳寒期の草勢維持に有効な電照設備の導入が進みました。

## 対象の概況

JA福岡市東部いちご部会  
新規就農者（就農10年未満） 8名

## 活動の内容

- |                   |     |
|-------------------|-----|
| 1 新規就農者の経営改善目標設定  |     |
| ・個別面談による経営改善目標の設定 | 1回  |
| 2 経営安定化に向けた技術の向上  |     |
| ・現地巡回             | 随時  |
| ・時期別栽培講習会         | 4回  |
| ・新技術導入検討会         | 2回  |
| ・新規就農者向け基礎講座      | 2回  |
| ・技術展示ほ（草勢維持試験）    | 2か所 |
| ・先進地の視察研修会        | 1回  |



視察研修会の様子

## 成果

- 1 新規就農者の経営改善目標設定
  - ・経営目標設定者数  
0名（R4）→ 8名（R5）  
(100%)



個別面談による経営改善目標設定の様子

- 2 経営安定化に向けた技術の向上
  - ・電照設備を導入した生産者  
2名（R4）→ 4名（R5）
  - ・秋ランナーによる親株採苗生産者  
1名（R4）→ 4名（R5）

## 今後の取り組み

新規就農者全員が経営改善目標を達成できるよう、現地巡回を中心とした栽培指導により、課題の整理や対策の提案を行い、技術力向上、経営安定化へ向けた支援を続けていきます。

# 【6】若手育成と振興品目による糸島花き産地の活性化

～ 若手の経営目標達成支援と特色ある花き品目の振興 ～

## 要約

生産者の高齢化が進む糸島花き産地を維持・発展させていくためには、しっかりとした経営を営む若手生産者の育成と特色ある花き品目の振興が重要です。

このため、若手生産者の中から重点支援対象者を選定し、個別目標の策定や、目標達成に向けた取組みの支援を行いました。また、新規導入品目であるタラスピの実証ほ設置及び栽培マニュアル作成により、生産量の増大に取組みました。

この結果、販売金額目標を大幅に上回るなど個別目標の達成を通じ、若手生産者の育成につながりました。さらに、タラスピは共選出荷本数が過去最高を記録しました。

## 対象の概況

JA 糸島花き部会	124名
うち若手生産者（45歳未満）	24名
うち重点支援対象者 （クルクマ6名、キク3名）	9名
うちタラスピ部会員	7名

## 活動の内容

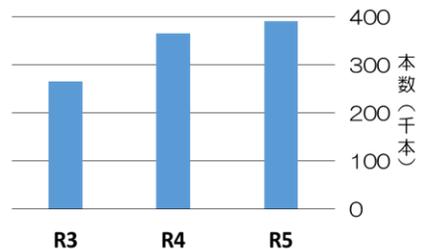
- 若手生産者等の経営改善
  - クルクマ
    - 経営目標設定支援 1回
    - 巡回指導 8回
    - 実績検討 1回
  - キク
    - 巡回指導 4回
- タラスピの安定生産支援
  - 実証ほ設置（時期別生育期間調査）
  - 栽培マニュアル作成



巡回指導の様子

## 成果

- 若手生産者等の経営改善
  - クルクマ
    - 販売目標を達成した重点支援対象者 2名（R4）→3名（R5）
    - 目標達成1名：152%
  - キク
    - 目標を達成した重点支援対象者 1名（R4）→2名（R5）
    - R5年は防除暦の作成等を支援し達成
- タラスピの安定生産支援
  - タラスピの生産量 265千本（R3）→390千本（R5）



タラスピ出荷本数の推移

## 今後の取り組み

重点支援対象者9名中、目標を達成していない生産者に対し、課題を再度整理するなど目標達成に向け支援していきます。タラスピについては、さらなる作付面積の拡大と栽培技術向上支援に取り組めます。

# 【7】ブランドかんきつの安定生産による産地強化

～ リレー販売体制の構築と若手農家の育成 ～

## 要約

糸島地区のかんきつ産地は、高品質果実の生産による有利販売を行っています。しかし、老木化や既存品種の単価低迷により、生産者数、面積ともに減少傾向にあります。

そのため、高単価が見込まれる優良品種への改植や、導入した品種の安定生産技術の確立を行うとともに、若手生産者を対象に勉強会の開催などの重点指導を行いました。

その結果、優良品種への改植が進み、優良品種の生産量が増加しました。また、若手生産者において、経営計画や実践プランが策定されました。

## 対象の概況

		(R2)
JA糸島柑橘部会	86戸	57.2ha
うち高畝マルチ栽培者	17戸	4.8ha
「早味かん」栽培者	14戸	1.3ha
レモン栽培者	12戸	0.9ha
若手グループ	14戸	17.1ha

## 活動の内容

- (R3～5)
- 優良品種への改植促進、生産拡大
    - 改植促進のための個別指導 5戸/年
    - 実証ほの設置 2-3か所/年
    - 栽培講習会 11支部×2回/年
    - ブランド化推進検討会 2回/年
    - 新品種の生育調査、検討会 7回/年
  - 若手グループの育成
    - 経営計画策定支援 10戸
    - 経営勉強会 4回
      - 税務に関する勉強会 (R3)
      - 雇用に関する勉強会 (R5)
    - 農業DX推進検討会 1回
      - スマート農業検討会 (R4)
      - (農薬用ドローン、アシストスーツ)



## 成果

### 1 優良品種への改植促進、生産拡大

(1) H22年以降の累計改植面積 単位a

品 種	R2	R5	増加分
温州みかん	568	758	190
中晩生かんきつ	458	673	215

(2) 出荷量の推移 単位t

品 種	R2	R3	R4	R5
早味かん	13.7	19.6	18.0	22.9
レモン	4.3	4.5	6.0	5.5

### 2 若手グループの育成

- 経営計画策定 10戸
- 実践プラン策定農家 1戸



経営勉強会の様子

## 今後の取り組み

改植が見込まれる生産者との個別面談や新品種検討会等により、優良品種への更なる改植促進を図ります。

また、若手グループへの支援を継続し、組織の中核となる人材の育成を図ります。

## 【8】園地流動化と省力化による甘夏産地の振興

～ 産地再生に向けて踏み出す One Step ～

### 要約

能古島産の甘夏は、樹上完熟栽培により高付加価値で販売される一方、生産者の高齢化や園地の老木・高木化、園地の荒廃化により産地の縮小が危惧されています。産地の維持振興のため、園地流動化の推進体制を整備し、園地情報の整理、共有を図ったところ、4園地、125aが担い手へ集積されました。また、栽培管理の省力化を図るため、改植により作業効率が改善された省力化園地の展示や、ドローンによる防除の実証を行い、4戸でドローン防除が実施されるなど、省力技術の導入が進みました。

### 対象の概況

JA福岡市能古柑橘部会	16戸
	11ha
若手農業者グループ 「のこOneStepファーム」	4戸
※ 園地流動化における担い手組織	

### 活動の内容

- 園地流動化の促進
  - 園地流動化会議 2回
  - 流動化園地巡回 2回
- 生産量の向上と省力化の推進
  - 総会、反省会 1回
  - 園地互評会 2回
  - 展示ほ（ドローン防除） 1か所
  - （省力化改植園地） 1か所
  - 個人面談会 14戸



ドローン防除の実証

### 成果

- 園地流動化の促進
  - 園地流動化件数（R3～5） 4園地
  - 園地流動化面積（R3～5） 125a
- 生産量の向上と省力化の推進
  - 生産量（R2 → R5）  
191 t → 123 t  
※ 令和5年1月の寒害により大幅減収
  - 省力技術導入件数（R3～5） 6件  
※ 省力化園地2園地、ドローン防除4戸



改植で作業効率が改善された園地

### 今後の取り組み

園地流動化会議への支援を継続し、園地流動化の促進を図ります。

のこOneStepファームの活動支援を継続し、再整備された園地の成園化や、今後の労働力確保、担い手育成等の検討に向けた支援を行っていきます。

# 【9】肉用牛の生産力維持・強化

～ 発育良好な肥育素牛生産を担う産地支援 ～

## 要約

J A糸島和牛部会は佐賀県中央家畜市場（多久市場）への子牛の出荷において、子牛発育調査で一定の基準を上回る個体を「糸島推奨牛」として出荷し有利販売を図っています。

近年の飼料価格等高止まりの状況下、「糸島推奨牛」率の向上は、所得確保のため重要な課題です。そのため、部会研修会や農場巡回指導、市場出荷調査等の支援を行ったところ、「糸島推奨牛」率（%）は昨年度より6.9ポイント上昇しました。

なお、糸島推奨牛は非推奨牛に比べ約105千円高く販売できています。

## 対象の概況

J A糸島和牛部会	8戸
繁殖雌牛飼養頭数	288頭

## 活動の内容

- 1 糸島和牛子牛生産基盤の維持
  - ・農場巡回調査 16回
  - ・部会研修会 1回
  - ・多久市場出荷調査 12回
  - ・自給粗飼料展示ほ 1か所  
（イタリアンライグラス）
  - ・子牛栄養管理技術支援 2回



多久子牛市場における発育調査

- 2 県肉用種牛共進会出品支援
  - ・全体巡回指導 1回
  - ・個別巡回指導 2回

## 成果

- 1 糸島和牛子牛生産基盤の維持
  - ・市場出荷頭数 119頭（8頭増）
  - ・糸島推奨牛率 54.6%  
（6.9ポイント増）
  - ・多久市場セリ価格（去勢）
    - 糸島推奨牛 589千円
    - 通常牛 484千円

※数値は1月市場までの結果

- 2 県肉用種牛共進会出品支援
  - ・若雌1区 最優秀賞1席受賞



若雌1区最優秀賞1席受賞牛

## 今後の取り組み

継続して農場巡回調査、部会研修会、多久市場出荷調査等の支援活動を行います。

飼養管理マニュアルの改正について検討を行います。

## 2 トピックス

### 【1】グリーンネット福岡が総会と研修会を4年ぶりに開催 ～福岡地域の指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザー及びOBが終結～

福岡地域の指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザー及びそれぞれのOBで構成している「グリーンネット福岡」は、令和元年8月の開催から4年ぶりに総会と研修会を開催し、会員が一堂に会しました。

総会では議案全てが承認され、研修会では青年農業士3人が活動報告を行いました。発表内容の『AIを活用したドローンによる雑草焼却技術について』では、ドローンで雑草を焼却する技術開発への取組について、『就農後自分が実施してきた活動について』では、法人を立ち上げ女性の雇用や耕畜連携などへの取組について、最後に『県外視察に参加した先進地事例について』では、福井県で開催された全国農業担い手サミットの研修参加報告について発表しました。若手農業者それぞれ幅広い活動を行っており、参加者は熱心に耳を傾けていました。



会長挨拶



青年農業士の発表の様子

### 【2】スマート農業技術による稲作経営の確立 ～省力・安定生産を目指して～

土地利用型の個別大規模農家が多い糸島市において、スマート農業技術導入による、水稲の省力・安定生産の実証に取り組みました。この実証では、大規模農家や機械メーカー等の関係機関と連携し、ロボット田植機による移植作業の労働負荷軽減や、ドローンによる防除及び生育診断・追肥の作業効率向上について調査しました。さらに、収量コンバインを活用し、次年度、施肥改善を行う予定です。また、実証にあわせて実演会も開催し、多くの農家に技術の周知を図りました。実演会に参加した農家からは、作業時間の短縮や生産コスト低減に期待をする声が聞かれました。引き続き、経営改善効果まで分析を行い、省力化や安定生産につながる技術を提案していきます。



無人ロボット田植機



実演会の様子

### 【3】(株)百笑屋が全国麦作共励会農林水産大臣賞受賞 ～大規模麦作経営と多様な取組みが評価～

令和5年度全国麦作共励会中央審査委員会が開催され、農家の部で糸島市の(株)百笑屋(代表松崎治久)が最高賞である農林水産大臣賞を受賞しました。(株)百笑屋は糸島市の二丈地区を代表する重要な担い手で、麦類48.6haを作付する土地利用型大規模経営農家です。

栽培の取り組みとして、県で開発された部分浅耕播種を導入し、県平均を上回る収量と省力低コスト栽培を実現しています。

また、積極的な女性の雇用、周辺農家の農作業の請負や県産麦のアピールのため、「糸島ビアファーム」の開催等、地域農業への貢献も熱心でこれらの取り組みが評価されたものと考えられます。



(株)百笑屋 集合写真



ビアファームの様子

### 【4】福岡管内で新たに3つの団体が福岡県GAP認証を取得 ～よりよい農業経営の実現を目指して～

福岡県GAPとは、農産物の安全性を確保するとともに、環境保全や労働安全などを進め、よりよい農業経営の実現に向けた取り組みです。作業場や圃場を整理整頓することで作業効率を向上させたり、生産過程の様々なリスクを認識し改善したりする中で、農業経営の改善や効率化を図ることができます。

福岡普及指導センター管内では、今年度新たにJA福岡市枝豆部会、JA糸島キュウリ部会、(株)JAファーム福岡の3つの団体が県GAPに取り組み、認証を取得しました。これまで21の団体・経営体が認証を取得し、認証継続に向けた取り組みを行っています。

普及指導センターは、引き続き県GAP認証取得や認証継続に向けた支援、国際水準のGAPへのレベルアップ支援を行っていきます。



現地での取組状況調査の様子



県GAPの視点で整理された農薬保管庫

## 【5】再生リン酸活用肥料「e・green」の効果検証 ～コスト削減を目指して～

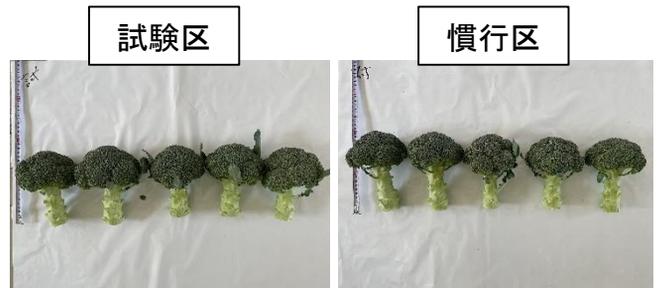
近年の肥料価格の高騰によって、肥料コストが経営へ与える影響が大きくなっています。このような中で、環境負荷軽減として再生リン酸を活用した「e・green」が注目されています。そこで、普及指導センターはJA系島ブロッコリー部会と展示ほを設置し、その実用性及び肥料コスト削減効果について検討しました。その結果、「e・green」は慣行肥料と同等の効果があると考えられ、肥料コストは試験区が安く抑えられたことで、コスト削減につながる事が分かりました。

また、JA福岡市と連携して、キャベツ、ブロッコリー、カブ、ダイコン、小松菜、春菊等でも、「e・green」の実証を行っています。

普及指導センターでは、今後も部会及び関係機関との連携を図りながら、農業者の生産・経営力向上へ向けた支援を続けていきます。



e・green試験ほ場



収量調査

## 【6】土壌病害リスクを低減し、花きの安定生産につなげよう！ ～JA福岡市花き部会で研修会を開催～

近年、草花類で問題となっている土壌病害の被害低減を目的に、関係機関と連携し、土壌病害対策の研修会を開催しました。

研修会では、JA福岡市花き部会員を対象に、農薬メーカーと県の試験場職員を講師に迎え、土壌消毒剤の効果やトルコギキョウの立ち枯れ病対策について説明を受けました。さらに、土壌くん蒸剤クロピクフローの灌水チューブによる処理の実演を行い、具体的な方法や必要機材、安全使用について理解を深めました。

普及指導センターでは、安全使用基準に基づいた効果の高い土壌消毒方法が実践され、安定生産が継続されるよう今後も支援を行っていきます。



研修会の様子



実演会の様子

## 【7】花き類における再生リン酸活用肥料「e・green」の効果 ～肥料コストの削減を目指して、試験実施中～

農業経営における肥料コストの割合は、近年の肥料価格の高騰を受け、年々大きくなっています。このような中、再生リン酸を活用した肥料「e・green」は、肥料コストの低減や環境負荷軽減を図るための有効な資材として、注目されています。そこで、普及指導センターはJA福岡市北崎花き部会と協力し、ストックで「e・green14・5・5」の展示ほを設置して、肥料コスト削減効果等について検討しています。

令和5年12月の状況では、「e・green」は花き類の生育に対し、慣行の肥料と同等の効果が認められています。肥料コストについては試験終了後に評価を行う予定です。

普及指導センターは今後も、生産者や関係機関と連携を取りながら、花き類の低コスト、安定生産の実現に向けて支援を続けていきます。



肥料成分測定のための土壌採取



ストックの生育の様子

## 【8】令和5年度福岡県花き品評会 「技術・ほ場の部(トルコギキョウ)」 県知事賞を受賞

令和5年10月、令和5年度福岡県花き品評会「技術・ほ場の部(トルコギキョウ)」において、糸島市の武藤寛和氏のトルコギキョウ「エスライトピンク」が県知事賞を受賞しました。この部門では、出品された県内の各ほ場を2日間で巡回し、生育の揃いや草姿などを審査されます。

武藤氏のトルコギキョウは、品種特性を十分に活かし、かん水や防除方法を工夫することにより、病害虫の被害がなく、品種ごとの生育の揃いも良い点が評価されました。

今後は夏期の遮光期間を見直すなど、更に高品質な秋出しトルコギキョウの増産に意欲を燃やしておられます。



受賞したトルコギキョウ「エスライトピンク」



開花期のほ場の様子

## 【9】令和5年度福岡県花き品評会 「産物の部」にてクレマチスが県知事賞を受賞

令和5年11月、福岡県花卉農業協同組合で開催された令和5年度福岡県花き品評会「産物の部」において、糸島市の吉村明峰氏のクレマチス「ロウグチ」が県知事賞を受賞しました。

品種の特徴である濃紫色の花色を出すために施肥やかん水方法を工夫したことに加え、こまめな誘引を行ったことにより、花付きに優れた端正な草姿を実現し、今回の受賞となりました。

吉村氏は、「今後もさらに品質向上させ、消費者に喜ばれる商品を作っていきたい」と、抱負を語っておられました。



吉村明峰氏



受賞したクレマチス「ロウグチ」

## 【10】第4回福岡県肉用種牛共進会にて最優秀賞を受賞 ～糸島の和牛が躍進～

令和5年11月11日、第4回福岡県肉用種牛共進会が開催されました。この大会は、県内繁殖農家の改良意欲の向上や県内の黒毛和種の育種改良などを目的とした和牛の品評会です。県内から若雌1区(12ヶ月齢～16ヶ月齢)に7頭、若雌2区(17ヶ月齢～20ヶ月齢)に12頭が出品され、管内からは5名の生産者から8頭の出品がありました。

1区において、糸島和牛改良組合の(株)木村牧場の「みつふじ号」が、体のバランスの良さや品位を評価され、最優秀賞1席を受賞しました。また2区においては、県立糸島農業高校の「やすりよ号」が、名だたる農家を抑えて最優秀賞3席を受賞しました。

今回の表彰は、糸島の和牛改良の成果を示すものであり、今後もさらなる改良に向け支援していきます。



木村氏とみつふじ号



糸島農業高校生とやすりよ号

## 【11】第74回日本酪農研究会で優秀賞受賞！

～酪農情勢に動じない安定した経営～

令和5年11月15日、日本酪農青年研究連盟主催の第74回日本酪農研究会が本県で開催されました。全国から約280名の酪農家等が集い、各地域の代表者6名による経営発表が行われ、九州地域の代表として糸島市の波多江浩一氏が自身の経営について発表しました。波多江牧場の取組である、エコフィードの活用と自給飼料の安定生産体制の構築、ゲノミック評価活用による高能力後継牛の安定確保等が評価され、「優秀賞」を受賞しました。

国際情勢の影響による飼料・資材・燃料費高騰、子牛販売価格の下落等、厳しい状況が続く中、今回の波多江氏の発表は、参加した酪農家の経営向上への意識を高め、励みになるものとなりました。おめでとうございます！



波多江浩一氏 発表の様子



表彰の様子

## 【12】「糸島豚」の地域団体商標を目指して

～試食PRイベント「うちの豚を食べてみらんね」開催～

JA糸島養豚部会の養豚農家9戸はそれぞれ個性を生かし、個人ブランド豚を生産しています。今年は糸島ブランドとして、さらなる販売力強化のため、9戸共通の基本ブランド「糸島豚」の地域団体商標取得を目指し活動しています。その一環として11月25日に「糸島豚」の認知度向上・販売促進のため、JA糸島産直市場伊都菜彩において、ロゴ入りの幟を立ててのPRと試食イベントが開催されました。当日は多くのお客様から「やわらかくて、脂が甘い」との評価を頂きました。

普及指導センターは今後も関係機関と連携し、糸島豚のブランド力強化及び養豚部会員の経営改善を支援していきます。

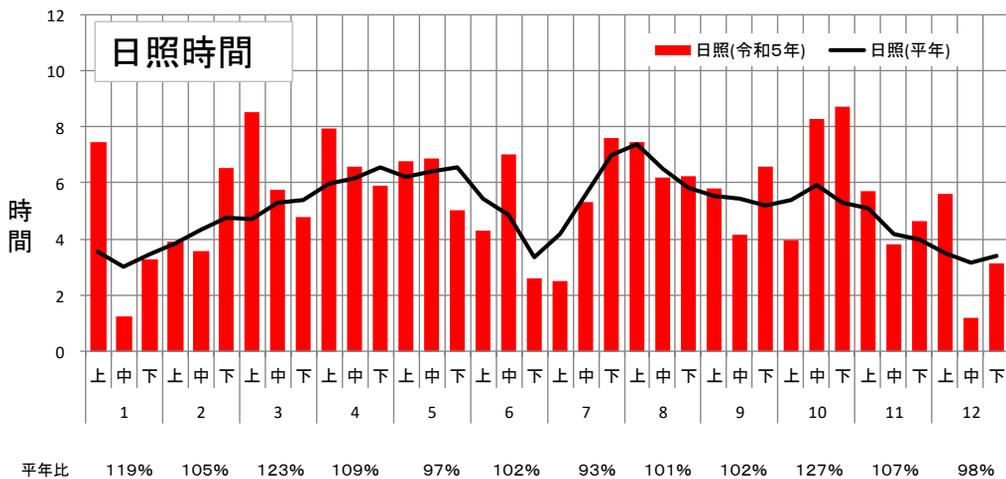
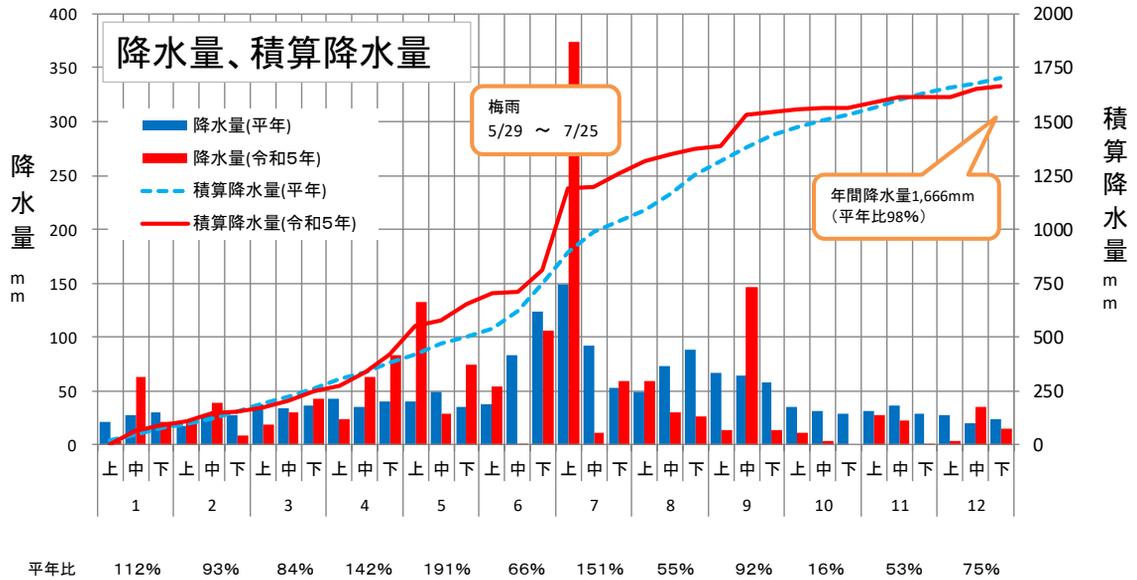
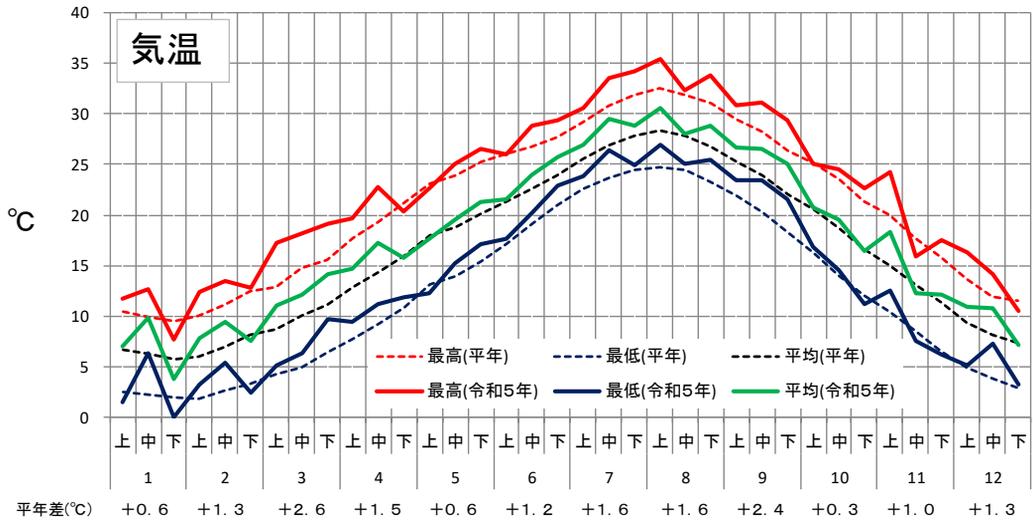


試食を手渡す生産者



糸島豚ロゴ

【1】 令和5年の気象概況



グラフは前原アメダス(糸島市)のデータをもとに作成

### 【気温】

- 年平均気温は、平年より1℃以上高くなりました。
- 旬の平均気温は、概ね平年より高く推移し、1℃以上高い旬が22回、2℃以上高い旬が13回ありました。
- 旬の最高気温は、平年より2℃以上高い旬が18回あり、年の半分が高温で推移しました。特に、3月上旬から4月中旬までと、7月中旬から9月下旬までがその傾向が顕著でした。

### 【降水量】

- 年間降水量は、平年並みでした。
- 一方、6月中旬以降は概ね少雨傾向で推移し、特に、8月中旬以降その傾向が顕著になりました。特に、9月下旬から10月下旬までの降水量は平年の2割に留まりました。
- 梅雨期間は、5月29日頃から7月25日頃で、平年より12日間長く、その期間の降水量は1割程度多かった一方で、平年の1割以下の旬も2回ありました。
- そのため、年後半では乾燥による作物の生育停滞が見られました。併せてその時期、カメムシやヨトウ類、ハダニ類など害虫の発生が増加しました。

### 【日照時間】

- 日照時間は、周期的に変動しながら概ね平年以上で年間推移しました。

### 【特徴的な事象】

- 1月下旬に寒波が到来し、約-4℃まで気温が低下する日もありました。但し、2月上旬以降の気温は平年より高く、作物の生育は概ね良好に進みました。
- 5月上旬の強風により、一部ほ場で麦類の倒伏が発生しました。
- 7月10日の大雨により、筑紫地区の水稻ほ場で土砂流入や畦畔の崩れ等の被害が発生しました。
- 8月10日朝に接近した台風6号の強風により、福岡市及び糸島市で水稻、露地キク及び牧草の倒伏や、栽培用ハウスの被覆資材の破損等が発生しました。
- 11月17日夜から18日午前にかけて、福岡市と糸島市の一部に雹が降り、露地野菜に傷や破損等の被害が発生しました。

## 【2】 令和5年度の主な展示ほの概要

係名	対象作物	課題名	設置場所	要約
水田農業	水稲	環境に優しい肥料の 現地適応性	福岡市	マイクロプラスチックを含まない基肥一発肥料である、e・green(20-10-10)の現地適応性試験を昨年産に引き続き実施した。玄米中タンパク含有率は慣行肥料と比較して低い(食味がよい)傾向にあった一方、初期生育不足で収量が少ないため、改善が必要である。
水田農業	水稲	被覆崩壊性の高い新規肥料の現地適応性の検討	糸島市	従来の被覆肥料より被覆崩壊性の高い資材「Jコート」を用い、新規肥料と従来肥料との比較を行った。精玄米重や屑米歩合、玄米千粒重は同程度であり、新規肥料導入の可能性が確認された。
水田農業	小麦	麦類奨励品種決定 現地試験	糸島市	硬質小麦「ちくしW43号」の現地適応性試験を実施した。供試品種は対照品種と比較して、収量性は同程度、短稈で倒伏に強いことが分かった。令和5年9月に準奨励品種に採択された。
水田農業	大豆	土壌水分計を用いた 大豆低収要因の分析	糸島市	昨年度の調査では、生育期間中のほ場水分が低いほど大豆の収量が少ない傾向にあり、今年度はほ場を変えて同様の調査を行った。今年度のほ場水分と収量の関係は現在調査中。
水田農業	大豆	収量増加を目指した カリ肥料の施用試験	筑紫野市	カリが不足している大豆ほ場に、カリ肥料を施用することにより収量向上を図る試験を実施した。結果は試験区・対照区で収量に差はみられなかった。
野菜	ブロッコリー かぶ 大根 ほうれん草 小松菜	地域未利用資源(再生リン)を利用した肥料e・greenの施肥試験	糸島市 福岡市	e・green(ブロッコリー・かぶ・大根:12-14-10、ほうれん草・小松菜:8-8-8)の現地適応性試験を年内に実施した。慣行肥料に比べて、株重はほぼ同程度かやや少なかった。詳細を調査、分析中。1月以降2回目の試験実施。

係名	対象作物	課題名	設置場所	要約
野菜	いちご	CO2局所施用試験	糸島市 福岡市	CO2ガスを効率的にいちご株元に施用する試験を実施中。ハウス全体に施用する方法と比較した生育、収量およびCO2ガス施用の経費を調査中。
野菜	いちご	天敵ククメリスカブリダニによるアザミウマ防除効果の検討	福岡市	天敵ククメリスカブリダニを年内に放飼し、アザミウマの防除効果を検証する。現在、防除効果については調査中。
花き	タラスピ	定植時期別の生育調査	糸島市	定植時期別の出荷時期を調査し、過去2年の実績と比較して、定植時期別の出荷時期および早期開花に苗冷蔵が必要な時期を明らかにした。
花き	畑地性カラー	品種特性の把握と収益性の評価	糸島市	切り花カラー各品種の実証展示を行い、品種特性を評価した。品種ごとの収益性については現在調査中。
果樹	温州みかん	サンテ被覆による日焼け果防止効果の検証	糸島市	「早味かん」へのサンテの被覆により、日焼け果の発生を物理的に抑制できた。一方で、サンテの被覆は従来のホワイトコート処理より労力がかかるため、今後は被覆時期や量の検討などを行う必要がある。
果樹	中晩柑	中晩柑への冬季ジベレリン (GA) 処理による着花抑制効果の検証	糸島市	「天草」への1月のGA25ppm処理により、開花期の直花数が減少した。処理コストはかかるものの、処理により有葉花や新梢数が増加する傾向があったため、今後も着花が多いと予想される前年の冬季GA処理方法の検討を行う。
果樹	中晩柑	ドローン防除による薬剤付着効果の検証	福岡市	能古島の「甘夏」においてドローン防除を実施し、果実への薬剤の付着状況を調査した。薬剤は果実の上側によくかかった。樹冠の密接している園では、樹の上部の果実にのみかかるが、列間通路がある園では、下部の果実までかかることがわかった。

### 【3】 令和5年度 普及指導センター現地活動情報一覧

No.	表題	執筆係名
1	アスパラガス栽培基礎講座開催 ～就農に向けて、栽培管理や病害虫防除を学ぶ～	野菜
2	糸島4Hクラブ今年も元気に活動中 ～今年はさつまいもで地域の活性化に貢献を～	野菜
3	日本一のタラスピ産地糸島 ～苗冷蔵で需要期の安定出荷へ～	花き
4	クルクマ全国大会に参加 ～時代を拓く糸島のクルクマ～	花き
5	農業用ドローンの多様性について合同視察研修を実施 ～農業用ドローンの活用とノウハウについてまなぶ～	水田農業
6	JA糸島デルフィニウム部会生産躍進 ～選花後の低湿度管理で花散りゼロへ～	花き
7	令和5年度「ふくおか就農基礎講座」を開講 ～新規就農者の農業技術及び経営管理手法の早期習得を目指して～	地域
8	グリーンネット福岡が総会と研修会を4年ぶりに開催 ～福岡地域の指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザー及びOBが集結～	地域
9	ドローンを使った可変施肥実演会を開催 ～スマート農業機械による省力・安定生産を目指して～	水田農業
10	JA糸島青年部第1回経営研修会を実施 ～経営計画の策定と活用事例について学ぶ～	地域
11	JA福岡市ニンジン栽培講習会を開催 ～栽培管理や病害虫対策を学んで安定生産を目指す～	野菜
12	令和5年度筑紫地区リーダー研修会を開催 ～地域農業の担い手の経営向上を目指して～	地域
13	カンキツ高畝栽培研究会 互評会開催 ～おいしい『紅まる君』の収穫に向けて～	果樹
14	JA糸島ブロッコリー栽培講習会を開催 ～花蕾腐敗病対策に向けて～	野菜
15	福岡市青年農業者連絡会が交流会を開催 ～若手農業者と消費者の交流～	畜産
16	JA 福岡市東部いちご部会視察研修会を開催！ ～ベテラン農家の管理のノウハウを学ぶ～	野菜
17	クロピクフローによる土壌消毒の研修・実演会を開催 ～土壌病害リスクの低減による花き安定生産を目指して～	花き

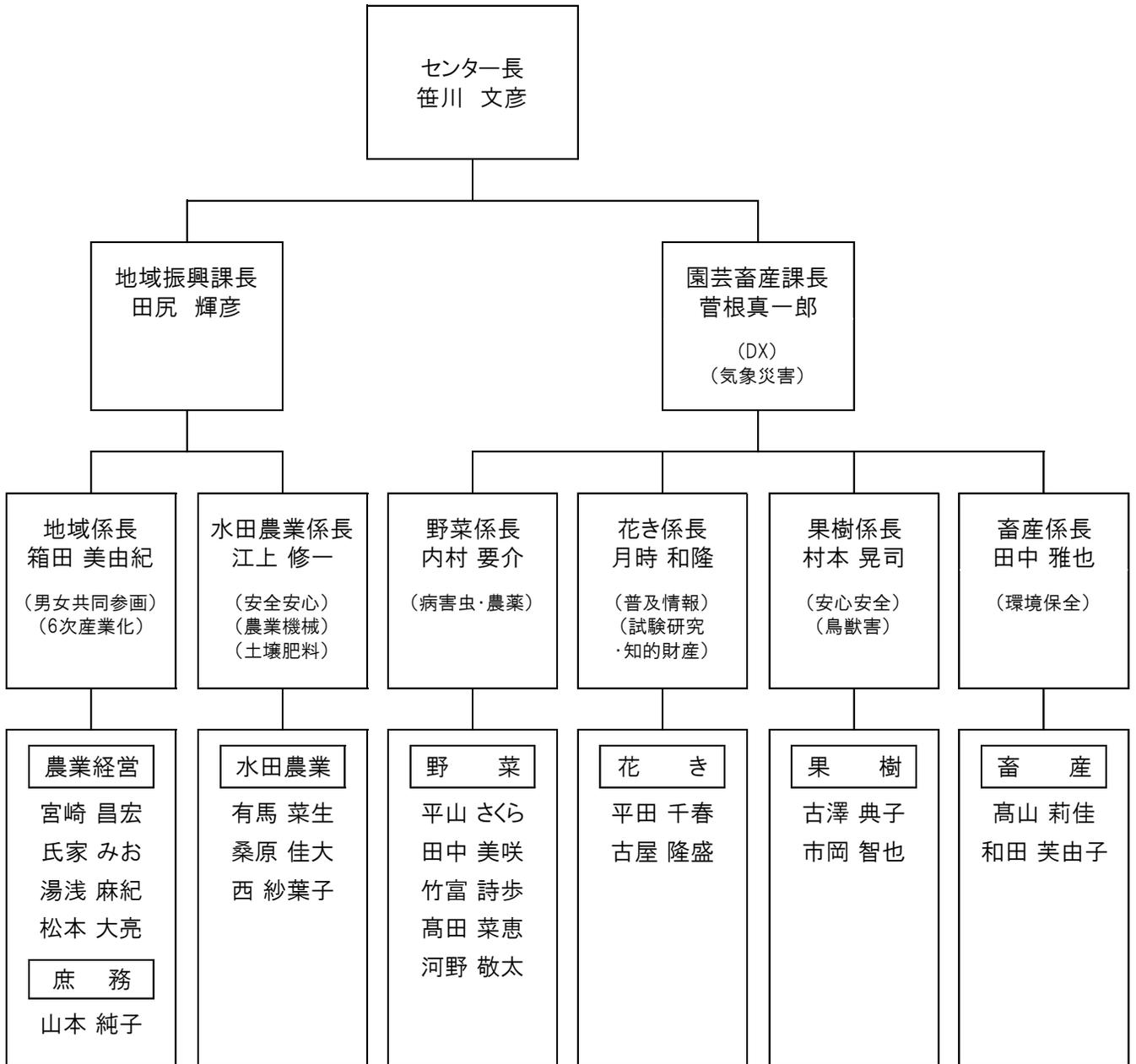
No.	表題	執筆係名
18	酒米部会で講習会を開催 ～高品質な山田錦の生産を目指して～	水田農業
19	女性農業者同士の交流会を実施 ～福岡地域の女性農業者が久留米地域の女性農業者組織を訪問～	地 域
20	高品質・高収量の麦を目指して ～JA糸島麦作振興研修会を開催～	水田農業
21	第59回福岡県肉畜共進会が開催されました ～各部門において管内農家が躍進～	畜 産
22	農業用水対策についての視察研修を実施 ～自作の貯水槽について学ぶ～	野 菜
23	我が家の未来を考えよう ～JA糸島青年部を対象に経営力向上研修会と経営計画策定講座を開催～	地 域
24	糸島のトルコギキョウ生産者が県知事賞を受賞 ～糸島のトルコギキョウが県内1位と3位に～	花 き
25	女性農業者の4地区意見交換会を実施 ～福岡地区、古賀市、北九州地区、八女地区の女性農業者が意見交換を実施～	地 域
26	第4回ふくおか就農基礎講座現地研修会を実施 ～先輩農業者の農業技術や経営管理手法を学ぶ～	野 菜
27	「うちの豚ば食べてみらんね」 ～糸島豚食べ比べイベント開催～	畜 産
28	新規就農者の経営向上に向けた視察研修会を開催 ～糸島市新規就農者ネットワーク協議会会員が苗生産の現場を学ぶ～	地 域
29	農産物を引き付けるためのPOPづくり・PR方法を学ぶ ～第2回女性農村アドバイザー研修会開催～	地 域
30	JA糸島の温州みかん「紅まる君」の出荷始まる ～今年もおいしい！高畝栽培「山下紅早生」～	果 樹
31	野菜・果物を活用したアート「ベジフルフラワー」を学ぼう！ ～福岡地区女性農業者グループ連絡協議会が全体交流会を開催～	地 域
32	筑紫野市地産地消マルシェを初開催！ ～筑紫野市農業女性グループが地域住民に農産物をPR～	地 域
33	(株)百笑屋が農林水産大臣賞を受賞！ ～大規模麦作経営と多様な取組みが評価～	水田農業
34	除草作業の労力軽減へ ～リモコン除草機の実演会を実施～	水田農業
35	JA糸島青年部 経営計画の発表会を開催 ～経営計画を自ら考え作成し、経営発展を目指す～	野 菜
36	JA糸島柑橘部会若手生産者が勉強会を開催！ ～雇用の基礎知識や各種雇用方法を学ぶ～	果 樹

「活動情報」の内容は、福岡県ホームページの出先機関（福岡普及指導センター）に掲載しています。

## 【4】令和5年度表彰事業実績（国、県）

表彰事業名	部門（品目）	賞区分	受賞者名	市町村
全国麦作共励会	農家の部（麦）	農林水産大臣賞	(株)百笑屋 松崎 治久	糸島市
福岡県麦作共励会	農家の部（麦）	優良賞 (福岡県米麦品質改善協会 会長賞)	鬼木 利章	筑紫野市
福岡県花き品評会 技術ほ場の部	夏秋咲きギク露地部門 「寄のだるま」	県知事賞	山下 敏治	糸島市
福岡県花き品評会 技術ほ場の部	トルコギキョウ部門 「エレスライトピンク」	県知事賞	武藤 寛和	糸島市
福岡県花き品評会 産物の部	クレマチス 「ロウグチ」	県知事賞	吉村 明峰	糸島市
福岡県肉畜共進会	肉豚の部	金賞(畜産局長賞)	(有)王宇義農産	糸島市
福岡県肉畜共進会	和牛の部	金賞(農林水産大臣賞)	平山 英一	筑紫野市
福岡県肉畜共進会	和牛の部	銅賞	三宅 貞行	筑紫野市
福岡県肉畜共進会	和牛の部	銅賞	(株)長浦牧場	糸島市
福岡県肉畜共進会	国産牛の部	金賞(県知事賞)	西原 弥子	久山町
福岡県肉用 種牛共進会	若雌1区	最優秀賞1席(福岡県知事賞)	(株)木村牧場	糸島市
	若雌1区	優秀賞1席		
	若雌2区	最優秀賞5席		
福岡県肉用 種牛共進会	若雌1区	優秀賞2席	(有)三苫牧場	福岡市
福岡県肉用 種牛共進会	若雌1区	優秀賞4席	狭間 博美	糸島市
	若雌2区	優秀賞		
福岡県肉用 種牛共進会	若雌2区	最優秀賞3席	糸島農業高校	糸島市
福岡県肉用 種牛共進会	若雌2区	優秀賞	宮崎 静子	糸島市
第74回日本酪農研究会	経営発表	優秀賞、太田賞	波多江 浩一	糸島市
九州生乳販連 生乳品質共励会	第2部 (生産乳量250ℓ以上 500ℓ未満)	最優秀賞	松永 慎也	糸島市
		中央酪農会議会長賞		
		全国酪農業協同組合連合会 会長賞		
B&Wショー	第2部	優秀賞2席	有田 徹	糸島市
B&Wショー	第8部	名誉賞	狭間 祐一	糸島市
B&Wショー	第3部	優秀賞1席	波多江 浩一	糸島市
B&Wショー	第6部	名誉賞	中村 毅	福岡市
		リザーブチャンピオン		
B&Wショー	第7部	優秀賞	濱地 善朗	福岡市
B&Wショー	第7部	優秀賞2席		
B&Wショー	第9部	名誉賞	松永 慎也	糸島市

## 【5】普及指導センターの活動体制



※畜産係は広域活動(北筑前普及指導センター管内を含む)

※( )は担当窓口

### 班活動体制

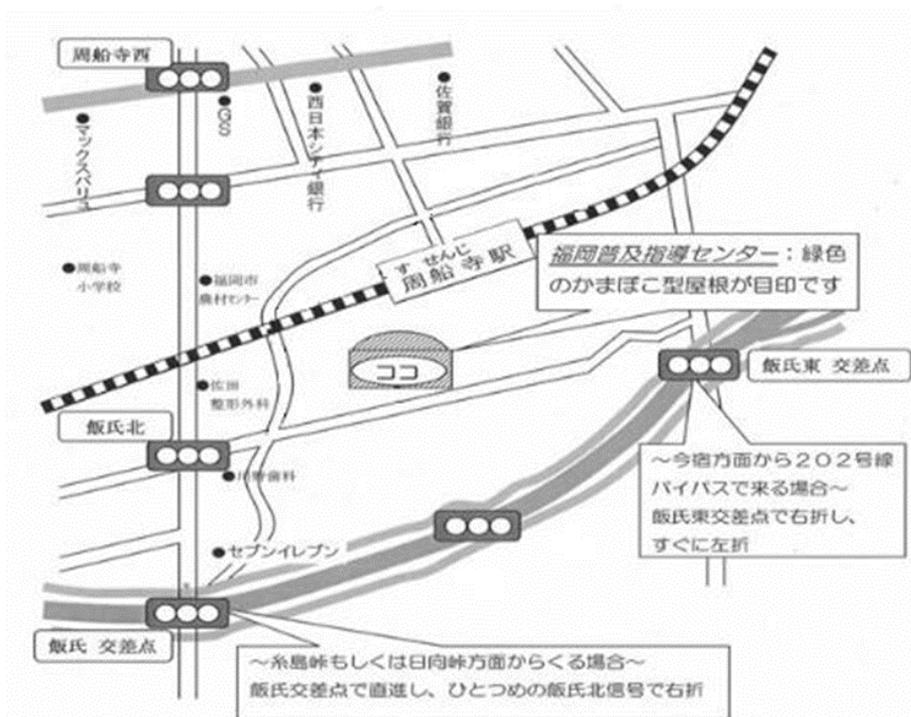
#### ①センター内運営事項における推進班

- 青年就農者等支援班
- 普及情報推進班
- 安全・安心推進班
- 経営体育成推進班

#### ②地域指導班

- 福岡班(福岡市)
- 筑紫班(筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、那珂川市)
- 糸島班(糸島市)

## 福岡普及指導センターへのアクセス



### 福岡県行政資料

分類番号 PA	所属コード 4703119
登録年度 05	登録番号 0001

## 福岡県福岡農林事務所 福岡普及指導センター

〒819-0371 福岡県福岡市西区飯氏902-1

TEL: 092-806-3400

FAX: 092-806-3367

HP: <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/fukuoka-fukyusidouusentahtml.html>

E-mail: [fukuoka-dlc@pref.fukuoka.lg.jp](mailto:fukuoka-dlc@pref.fukuoka.lg.jp)

